

垂直避難所として公園を有効活用しよう！

江東 5 区は公園長者！？ 公園に緊急避難用の回廊を設置すれば！

江東 5 区には、下記の通り大きな区立公園があり、勿論住民の賛同が必須ですが、区の判断での対応が取り易いと言えましょう。高潮・洪水などに耐えられる、高さ・施設（上下水道など）・強度を備えた耐久性のある回廊をこれらの公園に設置し、近くに緊急避難場所が必要な住民に安全な場所を提供しようとするものです。平常時には屋根付きの空間として使用します。

今、この原稿を書いている時に TV で台風 10 号が九州に上陸し縦断中とのニュースが流れている。ゲリラ豪雨に大地震の予測などなど、江東 5 区には洪水被害に直結する油断のならない日々が増えてきているように思えます。住民の老齢化は益々進み、一部地域の人口増加の朗報さえ心配の種になりかねない状況です。

大災害時に遠くに避難するのが困難な住人の数の多さを考える時、身近な場所に山や丘のように高い場所がない当地としては、区庁舎や学校などの人工の高所に望みを託すしか無いのが現状です。部分的に対応を始めている区もありますが、例えばマンションの低階層の人が個人的に上部階に緊急避難できるかといえ、昨今の隣近所の薄い付き合い状況を考えれば、残念ながら期待は持てないと言えましょう。

江東 5 区で直接的な大規模洪水或いは大地震による洪水で被災した場合の避難者の数は、膨大（被災の規模によるが各区数万～数十万人）な数になります。一発或いは単一の救済策では対応できるものではありません。考えられる対策は、小規模・限定的効果のものでも、塵も積もれば山となる方式もあわせ対応すべきであります。

試算の結果では、約 5,000 m²の公園に幅 4 m（内通路部 1 m、滞在部 3m）の回廊を巡らせた場合の収容可能人数は、約 1,130 名です。

この公園数には、当地に多い水辺の細長い公園を数多く含みますが、それらは 5000 m²をはるかに超えるものが多く、その面積を活かせば特徴を活かした、もっと大規模な回廊或いは別の構造の大きな施設の建設が可能だと考えられます。

各区にある当該公園と想定収容人数を下記すれば、

	5000 m ² 程度以上の公園数(収容可能者数)	3000 m ² 程度以上
江東区	29 ケ所 (32,770 名)	57 ケ所
墨田区	21 (23,730 名)	34
葛飾区	28 (31,640 名)	43
江戸川区	48 (54,240 名)	90
足立区	91 (102,830 名)	158

※東京都建設局公園調書（2023 年度調査）による。

※河川沿い、運河沿い、東京湾沿岸部などの公園を含む。

※周辺道路から 10m を取り（緑の確保）、4m 幅(通路部 1m・滞在部 3m の回廊を設置。回廊の角地などに上下水道施設を設置。

滞在部 1 名/1.5 m²。

今回は身近にあり、各区の対応のし易い例として区立公園のみを取り上げましたが、当然、区立・都立・私立・特殊学校などの校庭、公的機関の空地なども大いに対象とみなすべきであります。

建設した施設の使用に際しては、優先使用者（要介護者・病人・フレイル者など）を事前認定することが望ましいところですが、対象者の選定基準や現地でそれらを実施する作業・手順自体については難しい点が多く、別途並行して十分な検討が必要と考えます。

昨今、諸物価高騰の折であります。江東 5 区が力を合わせ、資材の規格や工法を統一し、ユニット化・モジュール化、新素材の採用、更には調達などに対応すべきだと考えます。また、使用・不使用時の施設や人的な安全性の確保なども重要でありますので、これらについても統一性が求められると思います。

更に、大切なことは、このような身近な避難先の確保について、広く地域の人たちから提案・起案を募り、そのことによって住民の関心を喚起することだと思います。

環境委員 磯貝三男(56 回)